

音楽 I

科 (科目)	芸術 (音楽 I)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	1年次～
使用教科書	教育出版「音楽 I 改訂版 Tutti」				
副教材等	「改訂 音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社				

1 学習の到達目標

歌唱や器楽演奏などを通して、創造的な表現の能力を高めるとともに、豊かな感性と音楽を愛好する心情を育てる。

2 指導の重点

楽譜から楽曲のイメージをとらえることを目指す。

3 学習の計画

	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前 期	・歌唱	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	10	授業への 取り組み 出席状況
	・器楽	・楽器の特徴にふさわしい表現をする。	15	
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	10	
後 期	・歌唱	・楽曲の曲想を感じて表現する喜びを味わう。	10	
	・アンサンブル (器楽)	・パートの役割を意識し、協力しあい合奏に参加する。	10	
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの特徴を味わう。	10	
	・創作	・知っている曲を変奏してみる。(リズム、拍子、強弱など)	5	

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

歌唱、器楽のテスト。プリント、感想文の提出。

5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	技能鑑賞の能力
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

6 担当者から一言

音楽の幅広いジャンルに興味を持って欲しいと思います。

教科(科目)	芸術(美術 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	2 年次～
使用教科書	光村図書「美術 1」				
副教材等					

1 学習の到達目標

芸術の幅広い創造活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 指導の重点

表現、鑑賞活動を通して、造形表現における基本的な知識・技術の習得を目指し、自己表現力を育てる。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・オリエンテーション ・レタリング ・色彩構成 ・抽象画	・「美術 I」の学習について、授業を受ける時の注意。 ・文字の描き方の基本を理解する。 ・色の三要素について理解し、色彩構成の基礎を学ぶ。 カラーワークで絵具の特性と塗り方の技法を学ぶ。 「発散・収縮」をテーマとして、色紙を使って色彩構成を行う。 ・モダンテクニックを使った抽象画の制作を通して、基本的な造形要素を理解し、構成の原理を学ぶ。 ・主題に基づいて構想を練り、アクリル絵具の技法や効果を生かして表現する。 ・生徒相互の作品を鑑賞し、相互評価を行う。	1 4 8 1 4 8	学習活動の様子 作品の内容 作品カード
後 期	・切り絵 ・立体模刻 ・鑑賞(模写)	・季節感をテーマとして、白黒のバランスを考えながら図柄を考える。 ・デザインカッターを使い、丁寧に切り抜きを行う。 ・粘土を使用して、立体感覚を養う。 ・自然物(石)をよく観察し、主題に合った着彩を行う。 ・画集を利用して、作家研究の鑑賞レポートを作成し、模写の制作を通して理解を深める。 ・1年間の学習を振り返り、学んだことを整理する。	1 5 1 0 1 0	学習活動の様子 作品の内容 作品カード

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や創造力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

6 担当者からの一言

主体的に授業に臨み、様々な単元の中で造形体験を増やししながら、自己の感性や表現力を高めてください。

教科(科目)	芸術(書道 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	1 年次～
使用教科書	光村図書「書 I」				
副教材等					

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

さまざまな書の美にふれ、表現技術を高め創作へといかしていく。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> 筆による表現の基礎 漢字の書 篆刻 	<ul style="list-style-type: none"> 筆の機能を理解して書く。 楷書、行書を通して豊かな書の美を表現する。 印を刻す技法を学ぶ。 	7	提出作品の内容
			18	
			10	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書 仮名の書 漢字かな交じり書 鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> 全体構成、表現方法、用具用材を工夫しているいろいろなサイズの紙に制作する。 かな技法と表現方法を通して日本の美を学ぶ。 漢字と仮名の融合を図り、身近なコトバを工夫して表現する。 作品の制作過程や完成した作品を鑑賞する 	10	提出作品の内容
			10	
			12	
			3	

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

制作過程の作品、完成作品の提出。

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

6 担当者からの一言

学年末には創作作品に押印できるようにひとつずつ学んでいきましょう。

音楽Ⅱ

科(科目)	芸術(音楽Ⅱ)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	2年次～
使用教科書	教育出版「音楽Ⅱ改訂版Tutti」				
副教材等	「改訂 音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社				

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽Ⅰで身につけた基本をもとに、個性豊かな表現能力を伸ばし、感性と心情を育てる。

2 指導の重点

楽曲から感じとったイメージを表現することを目指す。

3 学習の計画

	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前 期	・歌唱	・楽曲の曲想を深く感じて、曲想にふさわしい表現をし、表現する喜びを味わう。	10	授業への取り組み
	・器楽	・楽器の固有な表現方法に関心を持ち、楽曲にふさわしい表現をする。	15	出席状況
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの時代背景などを理解する。	10	
後 期	・歌唱(アンサンブル)	・パートの役割を意識し、協力しあい表現する。	10	
	・器楽(アンサンブル)	・パートの役割を意識し、協力しあい表現する。	10	
	・鑑賞	・さまざまな楽曲に関心を持ち、それぞれの時代背景などを理解する。	10	
	・創作	・知っている曲を使い、変奏してみる。旋律を変えたり、伴奏をつけてみる。	5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

歌唱、器楽のテスト。アンサンブルの発表。

5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	表現の創意工夫	音楽表現の技能	技能鑑賞の能力
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、個性豊かに主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	個性豊かに創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを主体的に味わっている。

6 担当者から一言

音楽の幅広いジャンルに興味を持って、さらに意欲的に音楽表現をして欲しいと思います。

科(科目)	芸術(音楽Ⅲ)	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	3年次～
使用教科書	教育出版「音楽Ⅲ」改訂版				
副教材等	「改訂 音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社				

1 学習の到達目標

諸活動を通して、個性豊かな表現の能力を伸ばし、さらに音楽に対する感性と心情を育てる。

2 指導の重点

楽曲から感じとったイメージを表現し、さらに協力しあい音楽を作り上げることを目指す。

3 学習の計画

	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前 期	・アンサンブル(歌唱、器楽)	・パートの役割を意識し、協力しあい合奏に参加する。 ・全体として調和のとれた表現をする。 ・全体としての調和に関心を持ち表現を味わう。	25	授業への取り組み 出席状況
	・鑑賞	・楽曲のさまざまな特徴に関心を持ち、理解し鑑賞する喜びを味わう。	10	
後 期	・アンサンブル(歌唱、器楽)	・パートの役割を意識し、協力しあい合奏に参加する。 ・全体として調和のとれた表現をする。 ・全体としての調和に関心を持ち表現を味わう。	20	
	・鑑賞	・楽曲のさまざまな特徴に関心を持ち、理解し鑑賞する喜びを味わう。	10	
	・創作	・自作曲へチャレンジする。	5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

アンサンブルの発表。各パートのテスト。

5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います

関心・意欲・態度	表現の創意工夫	音楽表現の技能	技能鑑賞の能力
音楽を愛好し、文化を尊重し、個性豊かに音楽活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	音楽の良さや美しさを深く感じとり個性豊かに音楽活動を行っている。	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身につけている。	音楽文化に対する総合的な理解を深め、その良さや美しさを味わっている。

6 担当者から一言

今まで音楽Ⅰ、Ⅱで習得したことを基に、歌唱やアンサンブルなどを通して、音楽の楽しさを感じて欲しいと思います。

美術Ⅱ

教科(科目)	芸術(美術Ⅱ)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	2 年次～
使用教科書	光村図書「美術2」				
副教材等					

1 学習の到達目標

美術Ⅰの基礎の上にさらに美的感覚洗練し、美術を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。

2 指導の重点

個性的な表現活動を積極的にする。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・イラストレーション	・四字熟語をテーマに、その内容や意味を視覚的に表現する。	20	学習活動の様子
	・静物画(油彩)	・油絵の具の特性を理解し、効果的に使用する。 ・構図、立体感、空間感など、絵画における諸要素を学ぶ。	15	作品の内容 作品カード
後 期	・干支の置物(張り子)	・干支の置物のデザインを考え、張り子の技法で制作し、胡粉と顔彩で着色する。安定感やまとまりのある形を考え、制作を通して立体感覚を高める。	15	学習活動の様子 作品の内容
	・エッチング	・「靴」を題材として、腐食工程を伴う銅版画による表現の特性について理解し、技能を身につける。	15	作品の内容 作品カード
	・鑑賞	・作品の鑑賞方法を学ぶ。 ・作品の背景にある、美術の歴史を学ぶ。 ・自分の意見・感想を発表する。	5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、個性豊かに主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や創造力を働かせて、感じとったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、個性豊かに発想し、創造的な表現を工夫している。	個性豊かに創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや美術文化などを理解し、そのよさや美しさを味わっている。

6 担当者からの一言

楽しみながら個性的な作品を制作しましょう。

美術Ⅲ

教科(科目)	芸術(美術Ⅲ)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	3年次～
使用教科書	光村図書「美術3」				
副教材等					

1 学習の到達目標

美術ⅠⅡの履修後、さらに個性豊かな表現能力を伸ばし、美術を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。

2 指導の重点

個性的、創造的な表現活動をする。

3 学習の計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	・鉛筆デッサン、水彩	・静物モチーフの描写を通して、デッサン力を高める。	15	学習活動の様子
	・静物画(油彩)	・構図、立体感、空間感を意識して、モチーフをしっかり観察し、その関係をとらえて表現する。 ・表現したい主題に合わせて、色、形、マチエール(絵肌)など、効果的な表現を工夫する。	20	作品の内容 作品カード
後期	・広告ポスター制作	・興味、関心のあるテーマ(商品)を設定し、メッセージの内容を考え、視覚的に表現する。	15	学習活動の様子
	・彫刻「自分を彫る」	・抽象彫刻について理解を深める。 ・自分自身のことを考えたり、見つめ直すことを通して作品の構想を深め、抽象的な立体表現につなげる。	15	作品の内容 作品カード
	・鑑賞	・作品の鑑賞方法を学ぶ。 ・作品の背景にある、美術の歴史を学ぶ。 ・自分の意見・感想を発表する。	5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
美術を愛好し、個性的、創造的に表現しようと活動している。	感性を働かせて美術の良さや美しさ感じとり個性豊かにかつ創造的な表現を考えている。	材料、用具の効果的な使い方を理解して表現しようとしている。	様々な材料、技法の生かし方を理解している。

6 担当者からの一言

楽しみながら個性的、創造的な作品を制作しましょう。

工芸 I

教科(科目)	芸術(工芸 I)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	2 年次～
使用教科書	日本文教出版「工芸 I」				
副教材等					

1 学習の到達目標

作品作りを通して基礎的な諸能力を伸ばして工芸を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。

2 指導の重点

積極的に制作し、できあがった作品を使用する。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・ペーパーウェイト (樹脂)	・立体成形の工程を理解し、油粘土による原型作りや磨き作業など、用具を効果的に使用し、丁寧な作品作りを心がける。	1 5	学習活動の様子 作品の内容 作品カード
	・ペーパーナイフ (木彫)	・使いやすく独創的なデザインを考え、制作する。	2 0	
後 期	・ランプシェード	・和紙による張り子の技法で制作する。 ・設置する場所に適したデザインを考える。	1 5	学習活動の様子 作品の内容 作品カード
	・コースター (革工芸)	・革の素材、利点を学び、基本的な革工芸の工程を理解する。	1 0	
	・陶芸	・板づくりの技法を学び、ペンスタンドを制作する。 ・陶芸作品の制作工程を理解する。	6	
	・鑑賞	・工芸の歴史、技法について学ぶ。 ・作品の鑑賞方法を学ぶ。 ・自分の意見・感想を発表する。	4	

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
工芸を愛好し、生活と美しさのかかわりに関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて心豊かな発想をし、良さや美しさなどを考え、制作の構想を練っている。	創造的な表現をするために材料や用具を活用する技能を身につけている。	生活の中に生かされている工芸のよさや美しさを創造的に味わっている。

6 担当者からの一言

楽しみながら作品制作をして、完成作品は自分や家族で使ったり、飾ってみましょう。

工芸Ⅱ

教科(科目)	芸術(工芸Ⅱ)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	3 年次～
使用教科書	日本文教出版「工芸Ⅱ」				
副教材等					

1 学習の到達目標

工芸Ⅰの基礎の上にさらにもの作り感覚を洗練し、工芸を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。

2 指導の重点

個性的な表現活動を積極的にする。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・陶芸	・手びねり、ひもづくり、板づくり、ろくろ成形など、 様々な作り方を学び、制作する。	15	学習活動の 様子
	・スプーン(木彫)	・素材の木や用具の特性を理解する。 ・使いやすく、独創的なデザインのものを作成する。	20	作品の内容 作品カード
後 期	・小銭入れ(革工芸)	・素材の特徴を生かしたデザインを考える。 ・用具を効果的に使用する。	15	学習活動の 様子
	・ろうけつ染め	・季節感をテーマに、ハンカチのデザインを考える。 ・制作を通して、ろう描きや染めの工程を理解する。	15	作品の内容 作品カード
	・鑑賞	・工芸の歴史、技法について学ぶ。 ・作品の鑑賞方法を学ぶ。 ・自分の意見・感想を発表する。	5	

計70時間(50分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	表現の構想と工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
工芸を愛好し、個性豊かに意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて工芸の良さや美しさ感じとり、個性豊かに発想し、創造的に表現を工夫している。	個性豊かに創造的な表現をするために、材料、用具、手順などを考えて制作する技能を身につけている。	心豊かな生き方にかかわる工芸の働きを理解し、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。

6 担当者からの一言

個性的な作品制作をして作品は自分や家族で使用し、また飾ってみましょう。

教科(科目)	芸術(書道Ⅱ)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	2 年次～
使用教科書	光村図書「書Ⅱ」				
副教材等					

1 学習の到達目標

書道Ⅰで学んだことを元に、より豊かな書の美に展開してゆきます。大小さまざまな作品制作を通して書表現の要素を活用、工夫してゆきます。

2 指導の重点

自己表現としての作品制作をめざして学んでゆきます。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・文字造形・構造美の研究 ・篆刻の研究	・甲骨金文を含む各書体の造形特徴・用筆を学び、創意ある表現を目指した作品制作を試みる。 ・草書、行書、仮名を中心とした流動美を表現する用筆、運筆を学ぶ。 ・篆書を学び、書の歴史と印について学ぶ。 ・篆刻作品を制作する。	1 8	提出作品の内容
			1 7	
後 期	・流動美の研究 ・漢字仮名交じり書の研究	・遅速、潤渇リズムなど、さまざまな表現方法を工夫した制作をする。 ・漢字、仮名を融合し、用具用材を含むさまざまな表現要素を考えながら、「自分の言葉」や「好きな言葉」を素材にして作品を制作する。	1 6	提出作品の内容
			1 9	

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

制作過程作品、完成作品の提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	表現の構想と工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、意欲的、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、個性豊かで創造的に表現を工夫している。	個性豊かに創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを個性豊かに味わっている。

6 担当者からの一言

書道Ⅰの学習の上に、さまざまな作品づくりをたのしみましょう。

構成

教科(科目)	美術 (構成)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	3 年次～
使用教科書	日本色彩研究所「デザインの色彩」				
副教材等					

1 学習の到達目標

造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め、感性や造形感覚と創造的な構成の能力を深める。

2 指導の重点

色彩、平面、立体を構成する諸要素を学び、美しく表現するための基礎的な能力を身につける。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	・形体描画基礎	・構成の三要素に関する基礎課題を行う。 (点・線・面)	10	学習活動の様子
	・配色基礎課題	・色彩の三要素に関する基礎課題を行う。 (色相、彩度、明度、トーン)	10	作品の内容 作品カード
	・色彩構成①	・点・線・面による幾何学的構成を学ぶ。 (テーマ～季節感、感情)	15	
後 期	・色彩構成②	・「モチーフ」を利用した色彩構成の課題を行う。	15	学習活動の様子
	・色彩構成③	・反転、切り離しを利用した構成課題を行う。	5	作品の内容
	・立体構成	・「リズム感」をテーマとして、モザイクブロック材を利用した立体構成の課題を行う。	15	作品カード

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	表現の構想と工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
美術を愛好し、個性豊かに意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて美術の良さや美しさ感じとり、個性豊かに発想し、創造的に表現を工夫している。	個性豊かに創造的な表現をするために、材料、用具、手順などを考えて制作する技能を身につけている。	心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解し、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。

6 担当者からの一言

個性的な作品制作を通して、造形表現の専門的な能力を身につけてほしいと思います。

工芸探究（社会人開放講座）

教科(科目)	芸術科	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	社会人（1年次～）
使用教科書	「陶芸ノート」 視覚デザイン研究所				
副教材等					

1 学習の到達目標

作品作りを通して基礎的な諸能力を伸ばして工芸を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。

2 指導の重点

積極的に制作し、生活の中でできあがった作品を使用する。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画の説明 ・基本的な陶芸作品の工程を理解する。 	1	授業態度 制作技術 作品
		<ul style="list-style-type: none"> ・手びねりやひも作り、板作りなど、基本的な制作方法を学び、作品作りを行う。 ・飛香里祭に出品するための作品を制作する。 	2 4 1 0	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 ・閉講式 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛香里祭に出品するための作品を制作する。 ・電動ろくろによる制作技術を学び、作品を制作する。 	2 0 1 4	授業態度 制作技術 作品
			1	

計 70 時間（50 分授業）

4 課題・提出物等

各単元での作品提出

5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
工芸を愛好し、生活と美しさのかかわりに関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて心豊かな発想をし、良さや美しさなどを考え、制作の構想を練っている。	創造的な表現をするために材料や用具を活用する技能を身につけている。	生活の中に生かされている工芸のよさや美しさを創造的に味わっている。

6 担当者からの一言

楽しみながら作品制作をして、完成作品は自分や家族で使ったり、飾ってみましょう。